

明日に向かって

県政活動レポート

報告レポート No.75



工藤 兼光
ホームページ
はこちらから

喜びも悲しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて

人口減少、少子化対策、歯止めがかからない、
青森県の最大の課題を、倉光つがる市長と。

ごあいさつ

令和8年6月12日、青森県議会326回定例会が開催され、6月29日閉会の会期は18日間となりました。上程された議案主なるものは、先ず一般会計補正予算が113億6,350万円。その歳出の主なるものは、中東情勢を受けた物価高に対応する県民生活や事業活動の支援、学校教育関係、またガソリン価格影響を大きく受けるトラック運送業者や漁業者の支援、又、条例改正の主なるものは危険鳥獣捕獲等手当を新設などであります。今回の報告は、この他3月議会一般質問の報告できなかった部分と、常任委員会での取組や政務調査活動などの主なるものを掲載しました。つたない報告ではございますが、ご高覧を頂き、引き続き皆様方の貴重な声を届けて下さいます様お待ちしております。

広大な緑の大地、津軽平野と岩木山

青森県議会議員

工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料

問2 本県の世界遺産を活用した誘客促進について

(2) 世界遺産を活用した県の誘客促進の取組について伺いたい。

答① 世界遺産「白神山地」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、人類共通の遺産として未来へ伝えるべき貴重な財産であり、本県への旅の目的となる重要な観光資源であることから、県では、SNS等を活用し、

海外からインフルエンサーも招請しながら、世界遺産をめぐる旅の魅力を発信するとともに、国内外の旅行会社へ世界遺産に立ち寄る商品造成を働きかけ、誘客に結び付けています。

② さらに、トレッキングツアーと一体となった白神山地を学ぶ都内での講座や、教育旅行誘致に向けた県外学校関係者の現地視察会などを関係者と連携しながら実施しています。



公園内で大型土偶を見上げる観光客



つがる市、縄文遺跡案内所



ガイドさんの説明を熱心に聞いている方達



旦那さんと奥さんで記念写真

問3 野生鳥獣被害対策について

(1) 県内の狩猟免許所持者の推移について伺いたい。

答 野生鳥獣対策の要となる狩猟免許の所持者数については、昭和56年度の延べ7,300人をピークに、平成27年度には過去最少の延べ1,400人まで減少しましたが、以降、徐々に回復し令和6年度には延べ2,100人となっています。



(2) 野生鳥獣被害対策においては、狩猟免許所持者の確保と育成が急務と考えるが、県の取組について伺いたい。

答① 県では、狩猟免許保持者の確保に向け、免許試験場を青森市、県南地域、津軽地域の3地区とするほか、今年度からは、農繁期を避けた12月にも実施するなど、実施回数を年4回に増やすといった受験環境の改善を図るほか、講習会受講料などの免許試験に要する費用の一部の助成を行っています。

② また、狩猟者の育成に向けては、クマ、シカ、イノシシなどの大型獣の捕獲技術を習得する講習会を引き続き実施するとともに、意欲ある狩猟者を県外の研究機関に派遣し、捕獲に係る知識や技術の向上を図ることとしています。

猟友会鱒ヶ沢支部、清野和雄支部長では、自らの命をかえりみず、鱒ヶ沢町地域住民の安全安心の為、日夜活動を続けているのです、感謝、感謝です。

「写真協力は、猟友会鱒ヶ沢支部」

問7 中村川の治水対策について

(1) 中村川の流域治水の取組状況について伺いたい。

答① 県では、令和4年8月に鯉ヶ沢町で発生した浸水被害を踏まえ、町や国、鉄道事業者など様々な関係者で構成する中村川流域治水緊急対策推進会議を設立し、令和5年3月に、概ね10年間で取り組む緊急対策メニューを策定しています。

② 具体的には、

- ・河川激甚災害対策特別緊急事業による河川改修の推進
- ・内水対策の強化として町による排水ポンプの整備
- ・森林整備や田んぼダムの推進
- ・防水教育の実施

など、ハード・ソフト一体となった多層的なものとなっています。

③ また、先月には、将来の気候変動に対応した治水対策として、中村川水系河川整備計画を変更し、さらに、流域治水の実効性を高めるための法定計画である流域水害対策計画の策定を進めているところです。



(2) 中村川の河川改修事業の進捗状況について伺いたい。

答① 中村川では、再度災害防止のため、河川激甚災害対策特別緊急事業により、河口から国道101号新中村橋上流までの1.4キロメートル区間において、令和4年度から来年度までの5年間で、河川改修を集中的に進めることとしています。

② 今年度は、河口部等における護岸整備を引き続き進めるとともに、中流部の舞戸橋付近で実施している河道掘削が完了する見込みです。

③ 来年度は、人道橋である新富橋の架替工事に着手するほか、河口部側の河道掘削を引き続き実施する予定としています。



青森県農林水産委員会と 青森県農協農政対策委員会との意見交換会

青森県農協農政委員会 乙部輝雄委員長から御挨拶、その後委員長から要請書手交。そしてJ A 青森中央会野呂常務から要請内容の説明を受け、その後各委員から、要請書の内容や、農業農政等にかかる内容で意見発言がなされました。委員会から8名、農業農政対策委員会から18名、予定された時間を大幅に押して、活発意見交換が行われました。



農業、地域政策の推進に向けた要請書手交



意見交換会で挨拶

「令和8年度食糧、農業、地域政策の推進に向けた要請書」

その内容的なものは、大きく9項目にも上りますが主なものとして、生産基盤の弱体化や中東情勢等々に伴う生産資材の価格の高騰、大雪での自然災害の多発化や高温障害の拡大、農村基本法の改正、食糧安全保障の強化、国産農畜産物の消費者への安定供給、水田政策の見直し等、営農継続環境の整備等を加速化する必要がある、などであります。

私達委員会としては、この他本県の課題をしっかりと把握し、県農林部と連携を密にし国への要望活動に取り組んで行きます。



雪害を受けたビニールハウス



雪害を受けたリンゴ樹木

「水産局長と、日本海沿岸の水産振興について語る」

日本海側の漁業は、その大部分が回遊魚を対象としており、スルメイカ、サケ、ハタハタ等の不漁が深刻であります。令和7年の日本海側全体の漁獲量は約4600トンと、過去10年で最も少なく、漁獲金額は約29億円と、過去10年間で3番目に低いと言う状況であり、水産業だけでなく、漁村地域の急激な衰退も危惧されています。この状況を打開するための県の施策についても聞きたいと思います。



水産局 種市正之局長と。

水産局長からは、まず、漁業生産基盤として、日本海側には16の大小の漁港があるが、操業の安全と背後集落の保全を確保する為に、漁港の整備をしっかりと進める。その上で、「つくり育てる漁業」により良質な資源を確保し水揚げ量を安定させながら、漁村地域の活性化に向けた「海業」の振興にも取り組んで行く事が重要と考えます。

具体的な施策としては、漁港漁場整備長期計画に基づいて、漁港の防波堤や岸壁等の整備を着実に進める。漁港内外の静穏地域等を活用し、マツカワなどの稼げる魚類やワカメやアカモクといった海藻類の養殖業を営む。漁港周辺の沿岸の磯根では、産卵や稚魚の生息場所となる藻場整備と併せ、コンブ、ウニ、アワビ等を放流し増殖させる。

沖合には幼魚の育成場や成魚を効率的に漁獲する魚礁を整備し、様々な魚を集め乍らヒラメやアブ

ラメ等の種苗も放流し、資源を底上げする。

これ等のコンテンツを活用しつつ、地域の文化や伝統、景観を活かし、漁業だけでなく、水産物の消費増進や交流促進など地域の水産業を活性化する「海業」の取り組みを推進する。こうしたことにより、漁村地域の産業基盤を再構築し、そこに雇用を生みだし、所得を増やし、若者を定着させることで、水産業と漁村地域の活性化を図っていききたい。と話していました。



「大型魚礁 深浦町」

魚の住める環境づくり藻場造成、沖合の海に設置します。

「つがる市総合体育館」

広大な敷地、津軽富士お岩木山を背にした、つがる市総合体育館は2023年5月にオープンされました。それから大相撲つがる市場所も開催され五所川原市出身の尊富士も出場し、その人気ぶりは大盛況なものでした。また歌手、彩青さん、杜このみさんの歌謡ショーも盛大でした。今年は49年ぶりという国民スポーツ大会が青森市のカクヒログループアスレチックスタジアムで開催されます。10月10日から20日まで、また障スポは10月23日から26日までとなっています。その中で、つがる市総合体育館では10月11日から14日まで少年女子バレーボールが開催されます。

また、10月17日から19日まで成年男子・女子、少年男子の柔道も開催されます。又、障スポバレーボールは10月24日から25日まで開催されます。どうぞご家族様、お友達も誘い合って沢山の皆さんで応援して頂きたいと思います。



バレーボール 青森BLOOM
野呂 加南子 NORO Kanako

私の煌ポイント

好守の安定感と小技の上手さ

小学2年生からバレーボールを始めて、高校卒業後はVリーグでプレーし、2023年に青森に戻ってきました。アウトサイドヒッターは難しいボールが集まってくるため、スパイクを決めきれぬかどうかで勝敗が変わる重要なポジションです。攻撃はもちろんですが、守備での活躍も見てもらえたらうれしいです。青森県代表としてプレーするのは中学生以来なのでプレッシャーもありますが、やるからには全力で上位を目指し、見ていての方がワクワクするような試合をしたいです。



MOVIE



(写真協力/つがる市国スポ推進室)

「野呂加南子 選手」

つがる市出身バレーボールの野呂加南子選手は、成年女子の部に出場、10月11日から14日まで、会場は五所川原市民体育館。

沢山の皆さんで応援に行って頂きたいと思います。

柔道 練習試合の様子





山梨県議会 藤本好彦議員

「青森県を強く豊かに」

これは、「日本を強く豊かに」高市総理のキャッチフレーズであります。私達もまた私達で、知恵を出し合って青森県を強く豊かにする為にはどうしたらいいのか頑張っていく行かなければなりません。その為にはやはり先人達から引き継いだ技術経験をもとに伝統文化を守り、基幹産業である一次産業、農林水産業を発展させることだと思います。広大な耕作地があり、山・川・海を繋ぐ水循環システムも限りなく豊かであります。又、三方海に囲まれた水産県でもあります。その中であって青森県も少子高齢化に歯止めがかからず、そのあげく地元に残る若者達の少ないことが何よりの大きな課題であります。

「全国農林水産業系高校及び 農林大学校を応援する都道府県議会議員連盟」

この事について山梨県議会議員「藤本好彦」氏が私の家を訪ねてきました。そして藤本議員は言う、一次産業を強くしなければならない、暮らしに欠かせない「食」や「自然」を支える農業・林業・水産業、未来へとつなぐには地域をよく知り、実践的な知識や技術を身に付けた人材の育成が不可欠です。その中心となっているのが、全国各地にある農林水産系高校や農林大学校です。これらの学校は地域の産業を支える柱であり、若者たちが夢を描きながら地域や自然と向き合い、自分の道を見つけていく為の学びの場として大きな役割を果たしています。その事は地域の未来を背負う若者達の成長であり、故郷日本の農山漁村の営みそのものであります。と語り続けました。私も未来の故郷と農林水産業を支える為に志を同じくする事に致しました。



県立五所川原農林高等学校 (私の孫がお世話になり卒業しました)

(文章と学校は直接関係ありません。)